

岡崎商工会議所方針

動き出す「ひと」「もの」「まち」

副会頭として第二期目に入った太田氏。「企業家の支援を充実させていく」との伊藤会頭の方針を受け、ひとづくり・国際交流に関する事業を中心となって推進していく同氏。幅広い視点が求められる中、その考え・思いは・・・

副会頭インタビュー：太田進造 氏(太田油脂(株)代表取締役)



《“ひとづくり”、感覚でなくデータに基づいた客観的な判断が必要》

依然厳しい経済状況の中でも当中部地区は比較的経済が安定していると言われていています。それらの背景を味方に、創業しやすい街・個性的な企業の集積地“岡崎”を支える人々を様々な面から強力にサポートしていきたいと思います。例えば現在行っている経営相談に加え、資金支援や各種セミナー開催等、利用者の声に柔軟に responding していくつもりです。また人材育成の面から言えば、例えば当社ではS K Yチーム(経営を主体的に検討するグループ)をベースに、全社

員の声を吸いあげるアンケートを実施。そして結果を全て数値化し、組織の課題を反映させたS K Y計画を策定しています。ひとづくりというものは、トップの考えを押し付けるものではなく、従業員の主体的な参画が必要なものだと考えます。また、人により異なる“感覚”を持ち込んではいけません。それでは全員で問題の共有ができないばかりか、不信感を生んでしまいます。

《最適生産場所を求めて》

現在ビジネスを行っていく上で、確かに中国を無視する訳にはいきません。しかし、メディアで取り上げられることが多い“安い人件費”のみで中国に進出するのは賢明ではないと思います。製品・商品の最適生産場所を求めた結果それが海外で、たまたま中国であったということです。太田油脂(株)では中国：大連でも事業を展開していますが、中国でビジネスを行う場合、私の経験から一つのキーワードに“現地化”ということがあげられます。事前の取り決めはもちろん必要ですが、経営や人材育成等信頼できる現地の人間に任せることがポイントです。国民性など、根本的に日本人の感覚と異なる部分もありますから。

《仕事も遊びも一生懸命》

社長としては「知産知商」をテーマとした会社の年度計画を毎日読み返しています。計画の進捗状況等、常に念頭におき把握するためです。プライベートでは自然の中で体を動かすハイキング・スキー等を満喫しています。一緒に行くのは気心知れた友人で、そのような時間がリフレッシュや健康維持のために欠かせない時間となっています。仕事にベストを尽すためには遊びもベストを尽す、常に一生懸命です。